

■検査に使う組織について

患者さんへ

この検査では手術で既に摘出されて保管されているがん組織、または診断目的で採取され保管されている組織（生検組織といい、胃/大腸カメラや 気管支鏡 針生検検査などでとったもの）を用います。保管されているがん組織や生検組織が古い場合や量が不十分な場合は、新たな採取が必要になることもあります。組織の新たな採取については採取に伴う侵襲についても主治医の先生とご相談ください。また、検査の種類によっては正常組織との対比を行うために血液検査も行います。

紹介医の方へ 組織検体の提出方法について

- 採取された組織は速やかに10%中性緩衝ホルマリン溶液に浸漬し、固定を行ってください。（推奨固定時間は48時間以内）。
- 3年以内の標本が望ましいです。
- 未染色スライドは正電荷スライドガラス（剥離防止コートスライドガラス）を用い、伸展・乾燥のための加熱は避け、常温で管理してください。
- 10 μ mの厚さのものを10枚ご用意ください。
- H.E.染色したプレパラートも1枚ご用意ください。
- 薄切時には検体ごとにミクロトーム刃を交換するなど、コンタミネーションに充分ご注意ください。
- 薄切水槽の水は検体毎にとりかえてください
- 検査の種類によりますが、20~30%の腫瘍細胞含有率が必要です。
- スライド作成が自院では難しい場合は当院ゲノム診療科へご相談ください。
- 血液の採取は当院にて行います。

持参いただきました薄切切片やH.E.染色プレパラートは返却することができません。